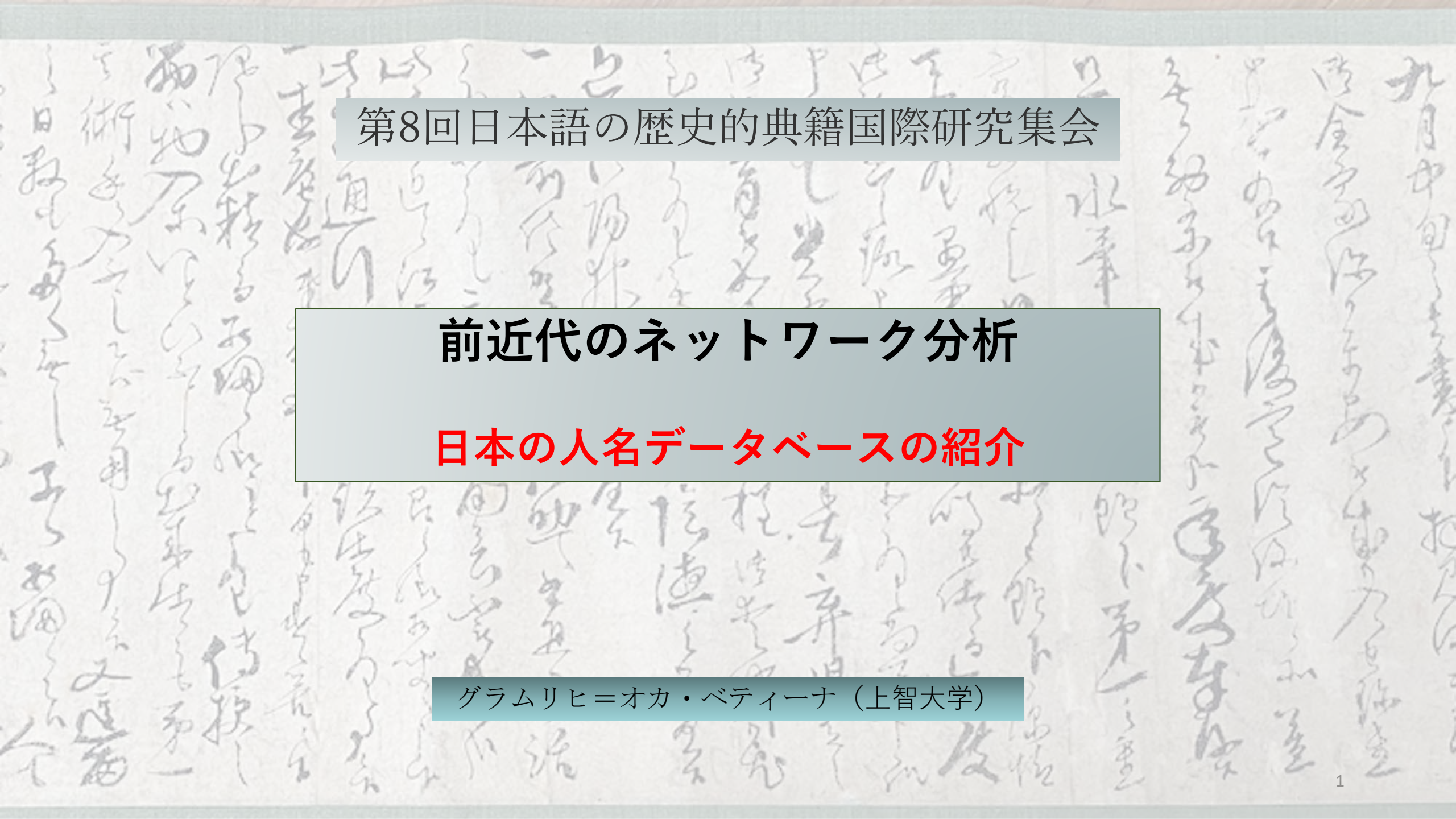




第8回日本語の歴史的典籍国際研究集会

前近代のネットワーク分析

日本の人名データベースの紹介

グラムリヒ＝オカ・ベティーナ（上智大学）

概要

1. 日本の人名データベース (JAPAN BIOGRAPHICAL DATABASE) の始まり
2. JBDBの目標と望み
3. JBDBの作成
4. JBDBのと現状
5. JBDBの可視化とツール
6. JBDB とネットワーク分析の課題と展望

1. 日本の人名データベース (JAPAN BIOGRAPHICAL DATABASE) の始まり

データどうする？



頼春水 (1746–1816)

頼静 (1760–1843)

春水日記・梅颯日記 (Ⅱ-58・Ⅶ-1 文書・記録類), 二大字「梅颯」(Ⅰ-52 書画類)

春水日記 (1781–1816) + 梅颯日記 (1785–1843)

2. JBDBの目標と望み その1

辞書

JapanKnowledge Lib

コンテンツ | 使い方

日本大百科全書（ニッポニカ）

頼春水

らいしゅんすい

[1746—1816]

江戸後期の儒者。安芸（あき）（広島県）の人。名は惟寛（ただひろ）、字（あざな）は千秋（せんしゅう）、通称は弥太郎、号を春水という。山陽の父、杏坪（きょうへい）の兄にあたる。大坂に出て片山北海（1723—1790）に学び、北海の主宰した混沌（こんとん）社（詩社）に加わって頭角を現し、家塾を開いたが、のち広島藩の儒官となった。厳格な朱子学者で、藩学を朱子学に統一して寛政（かんせい）異学の禁（1790）の先駆けとなり、昌平黌（しょうへいこう）の講師にもなった。江戸出仕中、松平定信（まつだいらさだのぶ）の知遇を得た。著書に『春水遺稿』（1828）などがある。

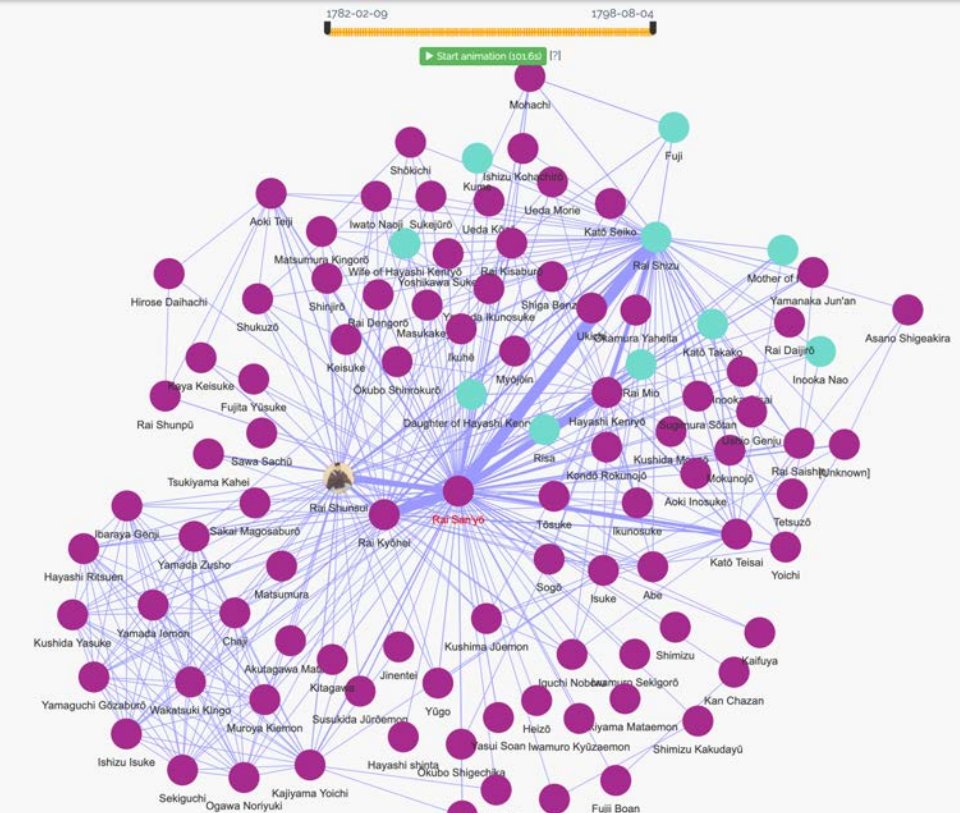
[石毛 忠]

2016年7月19日

©Shogakukan Inc.

データベース

リレーショナル -
データベース



日本に関係する歴史上の人物の伝記情報と、その人脈、社会的、政治的ネットワークを提供するWebベースのリソースを作成

1. ソーシャルネットワーク分析

2. JBDBの目標と望み その2

3. G I S

“Social Networks.” The concept of **social network analysis (SNA)**, which, although not invented by, was certainly made famous by Stanley Milgram and his **“six degrees of separation”** findings. It described how a **social network can be represented as a graph, with people as nodes and the relationships among people serving as edges where edges can also reflect things like whether the relationship is strong or weak, and whether it has directionality.** It introduced some terms specific to the SNA community such as homophily and multiplexity, and it described the graph analytic techniques that can be used to explore social networks.

James Powell, Matthew Hopkins, *A Librarian's Guide to Graphs, Data and the Semantic Web* (Chandos Publishing, 2015)

2. プロソポグラフィー

総合的な経歴調査である。対象とする社会に現れる人物の生没年時、出生地、婚姻の有無、家族構成、住所、学歴、財産、職業及び職歴、宗教など一定の項目に関する伝記資料を収集・整理し、それをもとに政治や社会の問題を考察する (W i k i)

“Prosopography” is the investigation of the **common background characteristics of a group of actors in history by means of a collective study of their lives.** The method employed is to establish a universe to be studied, and then to ask a set of uniform questions—about birth and death, marriage and family, social origins and inherited economic position, place of residence, education, amount and source of personal wealth, occupation, religion, experience of office and so on. The various types of information about the individuals in the universe are then juxtaposed and combined, and are examined for significant variables. They are tested both for internal correlations and for correlations with other forms of behaviour or action.

L. Stone, “Prosopography,” in *Historical Studies Today*, ed. F. Gilbert and S. Graubard (New York, 1972).

3. WEB上のデータベース作成

プロジェクト代表

グラムリヒ＝オカ・ベティーナ
(上智大学国際教養学部教授)

データベース構築

ボルン 礼於 (ハイデルベルグ大学)

プロジェクト作業統括

浅野友輔 (上智学院ソフィア・アーカイブズ臨時職員)

チームメンバー

島田裕司

白山友里恵

古市絢音



<https://app.jbdb.jp/#/>

4. WEB上のデータベースの現状 その1

2022/10/03

stats

データベースの統計をリアルタイムで見ませんか？

サイズ (MB):

90

合計人数:

13,192

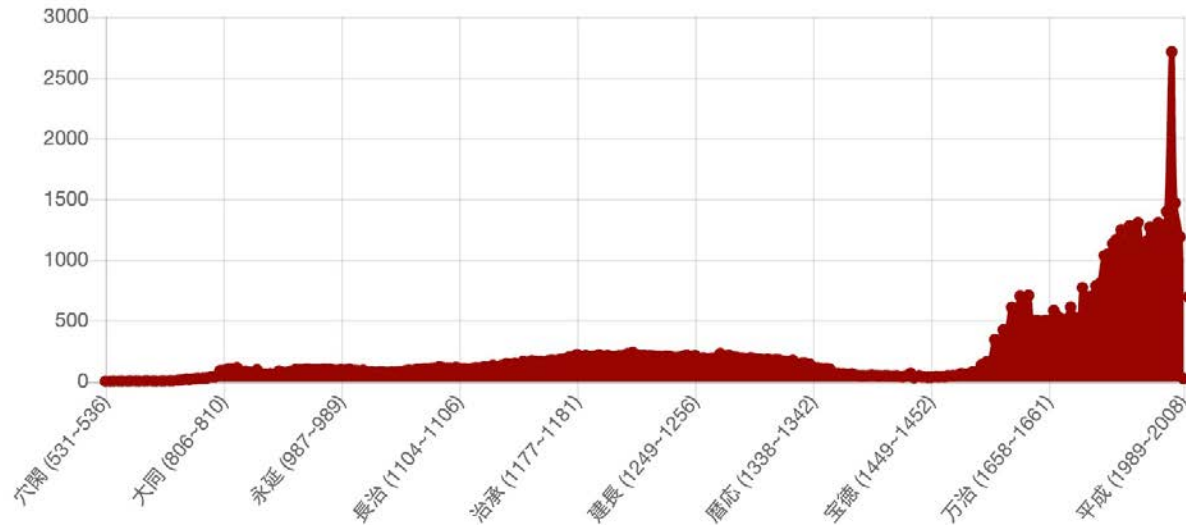
合計イベント数:

25,147

登録人数最多の年号:

明治 (2,712人)

各年号に生きていた人数の分布:



China Biographical Database
Project (CBDB)

<https://projects.iq.harvard.edu/cbdb>

HOME

About Us ▾

Methodology ▾

Sources ▾

Events ▾

Welcome

Introduction

The China Biographical Database is a freely accessible relational database with biographical information about approximately **521,442 individuals as of August 2022**, primarily from the 7th through 19th centuries. With both online and offline versions, the data is meant to be useful for statistical, social network, and spatial analysis as well as serving as a kind of biographical reference. The image below shows the **spatial distribution** of a cross dynastic subset of 190,000 people in CBDB by basic affiliations (籍貫).

HOW TO CITE C

[Harvard University
Biographical Data](#)

A QUICK OVERV

<https://handbook.>

WHO IS USING C

[CBDB Presentatio](#)

[Accessing](#)

UPDATES

4. WEB上のデータベースの現状 その2

春水日記 (1781–1816) + 梅颯日記 (1785–1843)

日記を選択して下さい:

☒ 春水日記 ☐ 梅颯日記

6429 / 11862 ライン処理済み

ライン番号 :

日記を選択して下さい:

☐ 春水日記 ☒ 梅颯日記

7359 / 13999 ライン処理済み

ライン番号 :

1781–1800 : 35年間で19年間

1785–1815: 58年間で30年間

(2022/10/03)

5. JBDBの可視化とツール

日本の人名データベース (JBDB)

日本の人名データベース

JBDB

プロジェクト

日本に関連する歴史上の人物の情報を蓄積するデータベースツール。最新のJavaScriptのウェブアプリケーションを利用し、China Biographical Database (CBDB) のデータベース構築に基づいて、PostgreSQLのデータベースを設置し、データの蓄積と、機能の更新に努めている。

国際共同研究: 歴史的典籍NW事業 (国文学研究資料館)

※データの入力と更新の際には、ユーザーアカウントの取得、およびログインが必要となります。

→ <https://jbdb.jp/ja/home-jp/>



JBDBのネットワーク可視化ツールによるこそ

可視化設定:

ネットワーク可視化をどの人物に基づいて行いますか？

☐ 全員 ☐ 名前で選択 ☒ 出典で選択 ☐ プロジェクトで選択 ☐ 身分で選択 ☐ 職業で選択

春水日記（頼山陽全書附録） ▾

接続をどの関係性に基づいて表示しますか？

☒ イベント ☐ 親族関係 ☐ 非親族関係

接続をどのイベントのタイプに基づいて表示しますか？

☒ 全部 ☐ 会議・会合 ☐ 交換

付属グループをどのプロパティに基づいて強調表示しますか？

☒ 性別 ☐ 身分 ☐ 職業 ☐ 出身・住所(エリア)

追加設定:

☐ 接合強度を可視化 [?]

☐ 人物の重要性を可視化 [?]

☒ タイム・スライダーを追加 [?]

☒ 西暦 ☐ 和暦

☐ グラフで未接合のノードを表示 [?]

出典限定追加設定:

☐ 接合を選択された出典に現れる人物に限る [?]

☐ 接合を選択された出典に基づく [?]

☒ 可視化の全データを選択された出典に基づく [?]

可視化する



JBDBのネットワーク可視化ツールによるこそ

可視化設定:

ネットワーク可視化をどの人物に基づいて行いますか？

☐ 全員 ☐ 名前で選択 ☒ 出典で選択 ☐ プロジェクトで選択 ☐ 身分で選択 ☐ 職業で選択

梅麗日記（頼山陽全書附録） ▾

接続をどの関係性に基づいて表示しますか？

☒ イベント ☐ 親族関係 ☐ 非親族関係

接続をどのイベントのタイプに基づいて表示しますか？

☒ 全部 ☐ 会議・会合 ☐ 交換

付属グループをどのプロパティに基づいて強調表示しますか？

☒ 性別 ☐ 身分 ☐ 職業 ☐ 出身・住所(エリア)

追加設定:

☐ 接合強度を可視化 [?]

☐ 人物の重要性を可視化 [?]

☒ タイム・スライダーを追加 [?]

☒ 西暦 ☐ 和暦

☐ グラフで未接合のノードを表示 [?]

出典限定追加設定:

☐ 接合を選択された出典に現れる人物に限る [?]

☐ 接合を選択された出典に基づく [?]

☒ 可視化の全データを選択された出典に基づく [?]

可視化する

ノード(node)=人

エッジ(edge)=つながり

春水日記 (1781–1816)

梅颯日記 (1785–1843)

1785-04-04

1802-08-09



ノード数: 736 / エッジ数: 2200
密度: 0.81% / クラスター係数: 0.2236 [?]



ノード数: 285 / エッジ数: 1072
密度: 2.65% / クラスター係数: 0.2629 [?]

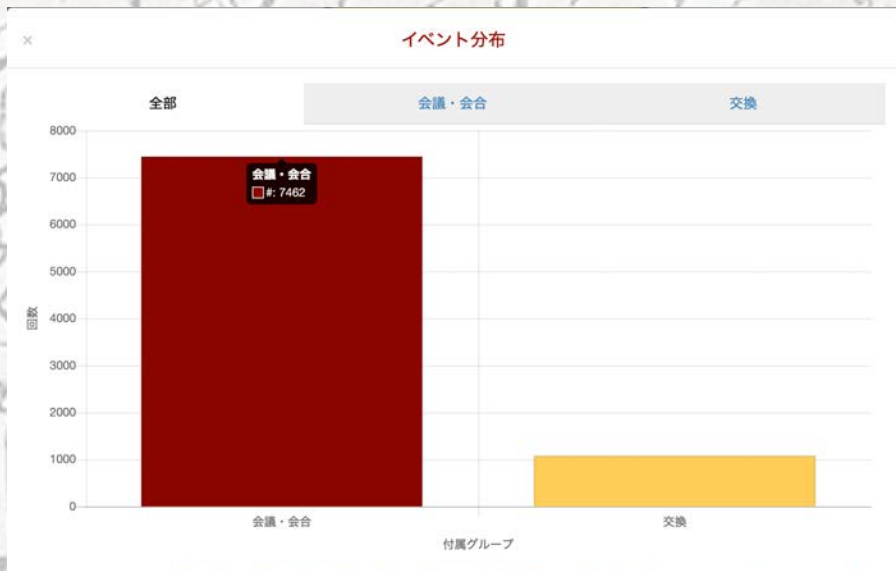
頼静 – 頼春水: 関連するイベント (131)



頼静 – 頼春水: 関連するイベント (581)

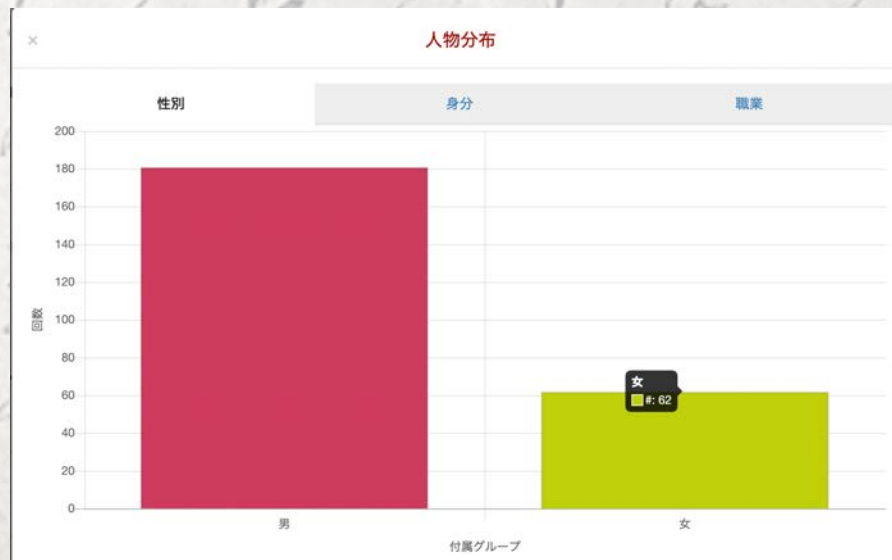
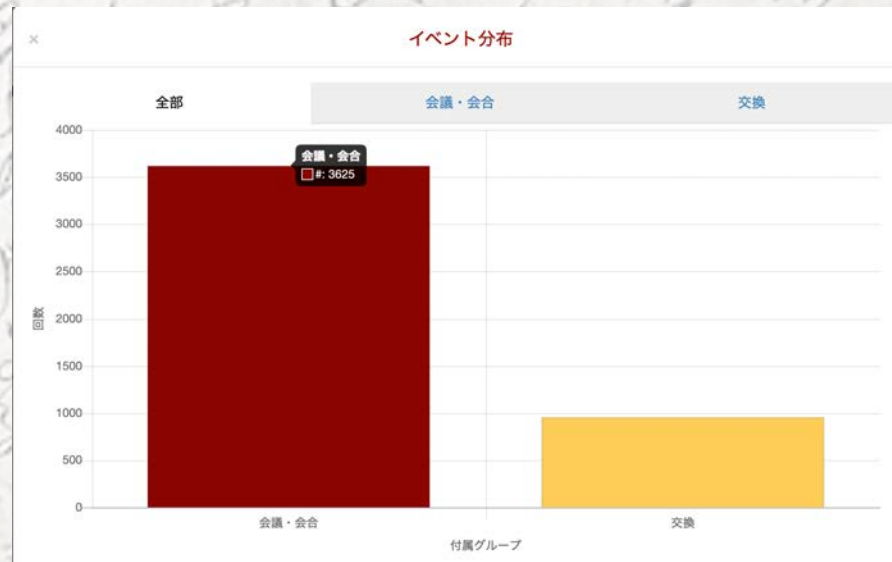
春水日記

梅颯日記



イベント数:
7462 vs 3525

ジェンダー
分布:
8 vs 62 女



⇒ ホモソーシャルな社会

6. JBDB とネットワーク分析の課題と展望

メイン・プロジェクト

近世後期の好古・考証
研究の源流と展開に関
する学際的国際共同研
究

京・大坂の文化サロン
とネットワーク
1780年～1880年

ドイツの大学における
日本人学生

上智大学史

近世におけるヨーロッ
パと日本（1549年～
1640年）

近世中後期上方文壇人
的交流データベース

2010- : Research Unit "Network Studies" of the Institute of Comparative Culture, Sophia University, Tokyo.



2022-2024: JSPS Research Grant (基盤研究C): 近世後期の好古・考証研究の源流と展開にする学際的国際共同研究（分担者）

2021-2023: 国際共同研究: 歴史的典籍NW事業 (国文学研究資料館)



2019-2021: JSPS Research Grant (基盤研究C): 18世紀後半における「儒者」の総合的研究—頼春水とその周辺 <https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

ご清聴どうもありがとうございました

